

## ■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 帝、月を御覧ず。〔地の文〕
- ② 大臣、宮中に参りたまふ。〔地の文〕
- ③ 翁、かぐや姫に「はや出でたまへ」と言ふ。〔翁の会話〕
- ④ 姫君、母君に文を奉りたまふ。〔地の文〕
- ⑤ 大納言、帝に「いかがはべる」と申す。〔大納言の会話〕
- ⑥ 中將、女房に「この琴を弾きたまへ」と言ふ。〔中將の会話〕
- ⑦ 法師、仏の御前にて経を申しけり。〔地の文〕
- ⑧ 君は「われ、その所へまかりなむ」と仰せらる。〔君の会話〕
- ⑨ 帝、御使ひを姫のもとへ遣はす。〔地の文〕
- ⑩ 翁、客人に「酒など侍りや」と問ふ。〔翁の会話〕
- ⑪ 内裏より使ひ参れり。〔地の文〕
- ⑫ 大將、帝に御文をたてまつりたまふ。〔地の文〕
- ⑬ 女房、姫君に「とく御覧ぜよ」と聞こゆ。〔女房の会話〕
- ⑭ 翁、月のうちに「われものぼりはべらむ」と思ふ。〔翁の心内〕
- ⑮ 大臣、帝の御前に候ひたまふ。〔地の文〕
- ⑯ 中宮、上にこのことを奏したまふ。〔地の文〕

## ■ 設問（全22問）

1. 傍線①「御覧ず」について
  - (1) 敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。
2. 次の傍線を現代語訳せよ。  
傍線①「御覧ず」
3. 傍線②「参り（たまふ）」の「参り」について、誰から誰への敬意か答えよ。
4. 傍線③「たまへ」について
  - (1) 敬語の種類を答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。会話文であることに注意せよ。
5. 傍線④「奉り」について、誰から誰への敬意か答えよ。
6. 次の傍線を現代語訳せよ。  
傍線④「奉り（たまふ）」（「奉る」の意味をふまえて）
7. 傍線⑤「はべる」について
  - (1) 敬語の種類を答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。

8. 傍線⑥「弾き（たまへ）」を含む文で、尊敬の意を表す語を一つ抜き出し、誰から誰への敬意か答えよ。
9. 傍線⑦「申し」について、誰から誰への敬意か答えよ。
10. 傍線⑧「まかり」について
  - (1) 敬語の種類を答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。話し手が誰かに注意せよ。
11. 次の傍線を現代語訳せよ。  
傍線⑧「まかりなむ」
12. 傍線⑨「遣はす」について、誰から誰への敬意か答えよ。
13. 傍線⑩「侍り」について、誰から誰への敬意か答えよ。
14. 傍線⑪「参れ（り）」について、誰から誰への敬意か答えよ。
15. 傍線⑫「たてまつり」について、誰から誰への敬意か答えよ。同じ「たてまつる」でも文脈で意味が変わることに注意せよ。
16. 傍線⑬「御覧ぜ（よ）」について
  - (1) 敬語の種類を答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。
17. 傍線⑭「はべら（む）」について、誰から誰への敬意か答えよ。心内文であることをふまえて考えよ。
18. 傍線⑮「候ひ」について、誰から誰への敬意か答えよ。
19. 傍線⑯「奏し」について
  - (1) 「奏す」は誰に対して用いる特別な謙讓語か答えよ。
  - (2) 誰から誰への敬意か答えよ。
20. 傍線③「たまへ」と傍線⑥を含む文の「たまへ」は、ともに会話文中の尊敬語である。これらの敬意の主体が「作者」ではないのはなぜか、十字程度で説明せよ。
21. 傍線⑫「たてまつり」と傍線④「奉り」は同じ語である。両者の敬意の対象（受け手）はそれぞれ誰か、まとめて答えよ。
22. 記述：地の文と会話文とで「敬意の主体」がどう変わるか、本文の例を一つ挙げながら一～二文で説明せよ。